

## マーケットの動き (2022年2月21日～2月25日)

先週の国内株式市場は、前週末比で下落しました。

週の前半は、ウクライナ情勢の緊迫化や、ロシアと欧米間の関係悪化を警戒した売りが優勢となりました。その後はロシアの軍事行動開始を受けて、ロシアへの経済制裁がインフレを加速させ、世界景気を冷やすとの警戒感が強まったことで一段安となりましたが、週末にかけては停戦交渉への期待感から買戻しの動きもみられました。

## 投資環境見通し (2022年2月)

## 国内株式相場は米国市場との比較で割安感は強い

企業業績については、10～12月期決算が引き続き堅調と予想されており、中国景気が底打ちし、新型コロナウイルスの新たな変異株の国内感染拡大が一服すれば、緩やかながらも拡大基調を維持するとみています。米国における金融政策正常化の動きが注目される中、同国株式相場は極端な物色動向の変化が生じやすく、変動率が高まる可能性があります。一方、国内株式相場は米国市場との比較で株価の割安感は強く下値は限定的とみられ、相対的に優位な展開になるとみています。

	2月25日	騰落率			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
TOPIX (東証株価指数)	1,876.24	▲2.50%	▲1.07%	▲3.07%	▲2.60%
日経平均株価	26,476.50	▲2.38%	▲2.41%	▲4.50%	▲12.24%

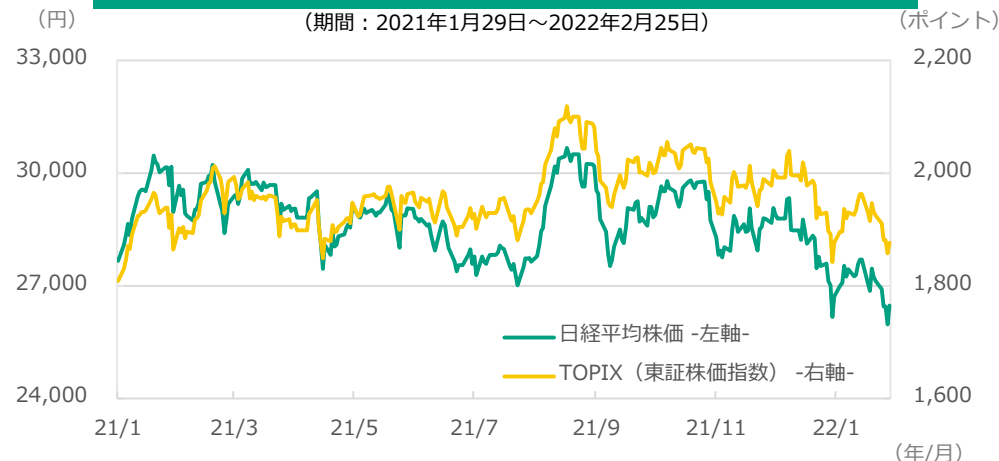
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

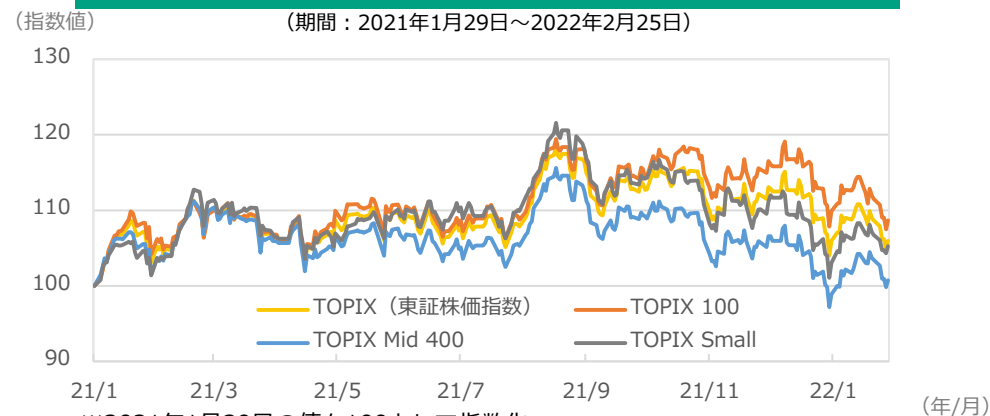
[https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload\\_pdf/202202\\_outlook.pdf](https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202202_outlook.pdf)

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し(総合)の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

## 日経平均株価、TOPIXの推移



## TOPIX規模別指数の推移



※2021年1月29日の値を100として指数化

※出所: FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成